

警 察 署 協 議 会 会 議 録

小倉南警察署協議会

開催年月日時	令和6年11月19日 午後4時00分 から 令和6年11月19日 午後5時00分 までの間		
開催場所	小倉南警察署 3階 大会議室		
出席者	警察署協議会	会長以下12名	
	警察署	署長、副署長、地域管理官、刑事管理官、総務課長、留置管理課長、生活安全課長、刑事第一課長、刑事第二課長、交通課長、警備課長、地域第一課長	
議 事 概 要			
<p>【会長挨拶（要旨）】 令和6年度第3回の小倉南警察署協議会に御出席いただき、感謝申し上げます。 県内各地で不審者の目撃が多発しているほか、年末を控え飲酒の機会が増加することから飲酒運転の増加も懸念される中、小倉南警察署から現状報告や対策等について説明等がなされる。 より良い小倉南区にするため、警察署の取組に対して多くの意見をいただきたい。</p> <p>【署長挨拶（要旨）】 当署の犯罪情勢に関し、特徴的なもの2点について話をさせていただく。 1点目は、不審者や不審電話の増加である。 首都圏で発生している闇バイトや強盗等が連日報道されていることに伴い、地域の皆様の警戒意識が高まっているように感じる。 通報により、不審者の特定につながったケースもあるなど、小倉南区民約20万人の目は事案解決の大きな力となっている。 2点目は、若者の薬物事案や素行不良グループによる事案の発生である。 若者の大麻等薬物事案に加え、20歳前後の若者同士のトラブルにおいて、凶器や集団の威力を用いるなどして「力」で解決しようとする事案が発生した。 これらを放置すれば数年後の小倉南区の治安に大きな悪影響を及ぼしかねないことから、芽のうちに摘むために、現在、可能な限り事件化して対処している。 警察としては、各種情報を分析してあらゆる事案に対処しているものの、警察力だけでは限界があり、行政や市民と連携しワンチームで有効な対処を図りたい。 そして、警察の施策が市民感覚との間に「ずれ」が生じることのないよう、委員の皆様からは是非とも意見をいただき、この会議をより良いものとしたい。</p>			

議 事 概 要

【報告事項等】

- 1 令和6年1月～10月の小倉南警察署治安概況（生活安全課長、交通課長）
- 2 地域住民と警察との連携及び防犯対策について（生活安全課長）
- 3 飲酒運転対策について（交通課長）

【質疑応答・意見要望】

- 自転車運転者に対するヘルメット着用指導について
委員から「自転車乗車時のヘルメットについて、学生は被っている人が多いものの、小学生や大人はほとんど被っていない。着用率を上げるための指導はどのように行っているか。」と質問があった。
交通課長から「各種学校での交通安全講習や、駅や商業施設など人が多く集まる場所で、チラシを配布したり、イベントを催すなどして、ヘルメットの着用について呼びかけを行っている。」との回答があった。
- 生活道路における通行について
委員から「近くに大きな道路があるのに、一方通行路のような生活道路を、抜け道として通行する車が多く、住民が駐車するにも支障がある、という声を聞いている。事故の危険性もあるので、何らかの規制をするのは可能か。」との質問があった。
交通課長から「住民の要望等により、規制を掛けることは可能であるので、詳しく内容を把握して、適切に対処したい。」との回答があった。
- 警察が広報する場合の用語について
委員から「SNS型投資・ロマンス詐欺が流行っていると様々な報道がなされている。投資の話や恋愛感情等を装って被害者が最終的に金を騙し取られるという点は昔と変わっておらず、ツールとしてSNSを利用しているのであり、地域住民に説明すると、特に高齢者などは『SNSって怖いね、使わない。』で終わってしまう。SNSが怖いのではなく詐欺が怖いのだということの効果的に伝えられる方法はないだろうか。」との質問があった。
生活安全課長から「最終的に被害者から金銭を騙し取るという点は変わらないものの、SNSという全世界とつながる非面接のツールが使用されることで、被害に至る間口、スピード、匿名性といった危険性が特に高まっている。SNSが危険であるということではなく、SNSを利用した詐欺が特に危険である旨を周知するために「SNS型」という文言を使用している。今後も、地域の皆様に分かりやすい形で周知を図りたい。」との回答があった。

